

2025 年度ふるさと創生NPO連携促進事業

豊かで持続可能な多文化共生社会の実現

NPO法人福祉コミュニティKOUZAKI

# 事業の背景と概要

## 背景

神崎地域では、50年以上にわたり、地域住民を中心とした自立的な相互扶助の地域社会が築かれてきました。しかし、近年は外国人技能実習生の受け入れが進み、地域の多様性が増しています。

私たちはこれまでに以下のような活動を実施してきました。

- ・年間約50回の日本語教室の開催
- ・技能実習生による海岸清掃活動の受け入れ
- ・地域住民との共同イベントの開催

これらの取り組みを通じて、地域住民の多くが「外国人技能実習生や留学生が日本で豊かで安心して暮らし、共に地域の繁栄を目指していける社会」を願うようになりました。

## 事業の概要

- ①外国人技能実習生対象のアンケート実施
- ②外国人技能実習生および留学生の交流拠点づくり
- ③外国人技能実習生向け視察および研修の実施
- ④外国人技能実習生による休耕地の有効活用

# 連携した団体

南日本造船協力事業協同組合  
大分大学経済学部三好禎之(よしゆき)ゼミ  
株式会社 旭商

アンケートで協力いただいた団体  
中津市外国人総合相談センター  
竹田市外国人相談窓口サポートセンター  
宇佐市外国人総合相談センター



進捗会議の様子



中津市外国人総合相談センターでの打ち合わせ

# ①外国人技能実習生対象のアンケート実施

## ねらい

技能実習生が安心して暮らすために何を望んでいるのか、また日々抱える悩みを正確に把握するため、大分県内に在住する技能実習生を対象にアンケートを実施します。

## 連携団体

南日本造船協力事業協同組合  
大分大学経済学部三好禎之ゼミ

中津市外国人総合相談センター  
竹田市外国人相談窓口サポートセンター  
宇佐市外国人総合相談センター

# ①外国人技能実習生対象のアンケート実施

## Survei Mengenai Kehidupan Warga Negara Asing di Prefektur Ōita

### Pendahuluan - Mohon Kerja Sama dalam Survei Kuesioner

Tahun ini menandai 80 tahun berakhimnya Perang Pasifik, yang menyebabkan banyak penderitaan dan kerugian besar bagi negara-negara Asia akibat penajahan dan agresi Jepang (pernyataan PM Tomiichi Murayama, 15 Agustus 1995).

Setelah perang, Jepang mengalami pemulihan luar biasa dan menjadi salah satu negara industri terkemuka di dunia. Namun, kemajuan pesat ini juga menimbulkan berbagai masalah sosial seperti kesenjangan pendapatan dan ketimpangan antara kota dan desa. Kita sebagai warga Jepang juga menghadapi tantangan baru yaitu penurunan populasi.

Kawasan tempat kami tinggal, Ōita-shi Honkōzaki, menghadapi tantangan yang sama. Seorang pria berusia 50-an yang meninggal dalam kesendirian minggu lalu. Sejak saat itu, masyarakat setempat telah bekerja untuk menghormati dan saling mendukung.

Dalam beberapa tahun terakhir, jumlah peserta pelatihan kerja asing telah meningkat. Kami telah mendorong interaksi antara mereka dan warga sekitar melalui acara budaya seperti kelas bahasa Jepang, perjalanan bus untuk menikmati alam Jepang, perayaan Tahun Baru dan Festival Boneka Hina.

Melalui kuesioner ini, kami ingin lebih memahami kehidupan sehari-hari Anda dan tantangan yang dihadapi, agar dapat mempertimbangkan tindakan bersama. Mohon partisipasi Anda untuk membangun komunitas yang lebih baik.

Agustus 2025

NPO Komunitas Kesejahteraan KOUZAKI

Direktur Inao Toru

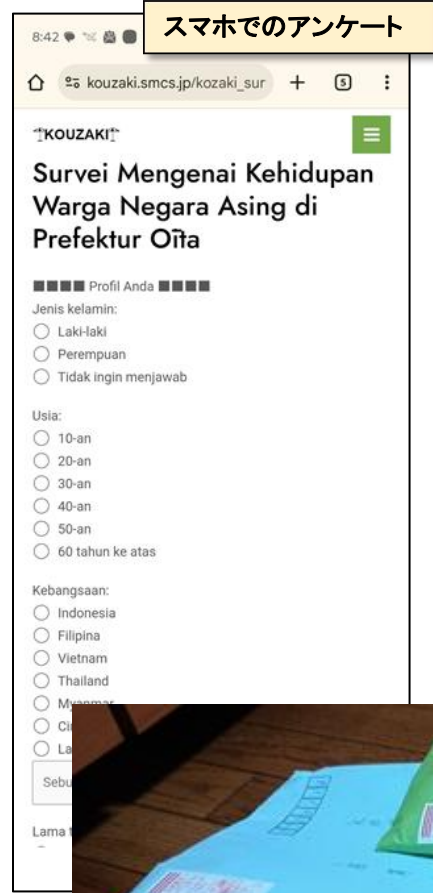
Silakan beri tanda  pada kotak  yang sesuai dengan kondisi Anda. Beberapa pertanyaan dapat memiliki lebih dari satu jawaban.

### Profil Anda

|   |   |
|---|---|
| Jenis kelamin:  | <input type="checkbox"/> Laki-laki <input type="checkbox"/> Perempuan <input type="checkbox"/> Tidak ingin menjawab   |
| Usia:   | <input type="checkbox"/> 10-an <input type="checkbox"/> 20-an <input type="checkbox"/> 30-an <input type="checkbox"/> 40-an <input type="checkbox"/> 50-an <input type="checkbox"/> 60 tahun ke atas  |
| Kebangsaan:   | <input type="checkbox"/> Indonesia <input type="checkbox"/> Filipina <input type="checkbox"/> Vietnam <input type="checkbox"/> Thailand <input type="checkbox"/> Myanmar<br><input type="checkbox"/> Cina <input type="checkbox"/> Lainnya ( )  |
| Lama tinggal di Jepang                                  | <input type="checkbox"/> Kurang dari 1 tahun <input type="checkbox"/> 1-3 tahun <input type="checkbox"/> 3-5 tahun <input type="checkbox"/> 5-10 tahun<br><input type="checkbox"/> Lebih dari 10 tahun  |
| Status izin tinggal:                                    | <input type="checkbox"/> Peserta pelatihan teknis <input type="checkbox"/> Spesialis keterampilan tertentu(TG)<br><input type="checkbox"/> Status Keimigrasian: Insinyur / Spesialis Humaniora / Pelayanan Internasional<br><input type="checkbox"/> Permanen Visa <input type="checkbox"/> Pasangan orang jepang<br><input type="checkbox"/> Lainnya ( ) |
| Apakah Anda tergabung dalam komunitas dari negara asal? | <input type="checkbox"/> Ya <input type="checkbox"/> Tidak  |
| Apakah Anda terlibat dengan komunitas lokal Jepang?     | <input type="checkbox"/> Terlibat <input type="checkbox"/> Ingin terlibat <input type="checkbox"/> Tidak terlibat sama sekali   |

- 日本語
  - やさしい日本語
  - 英語
  - インドネシア語
- 4種を用意

### スマホでのアンケート

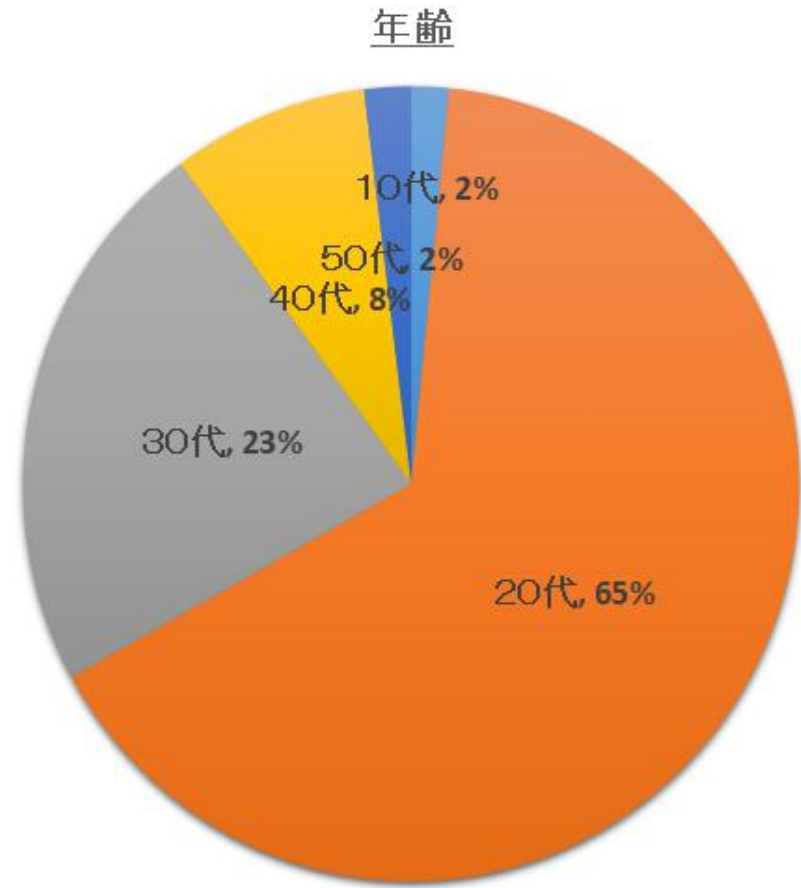
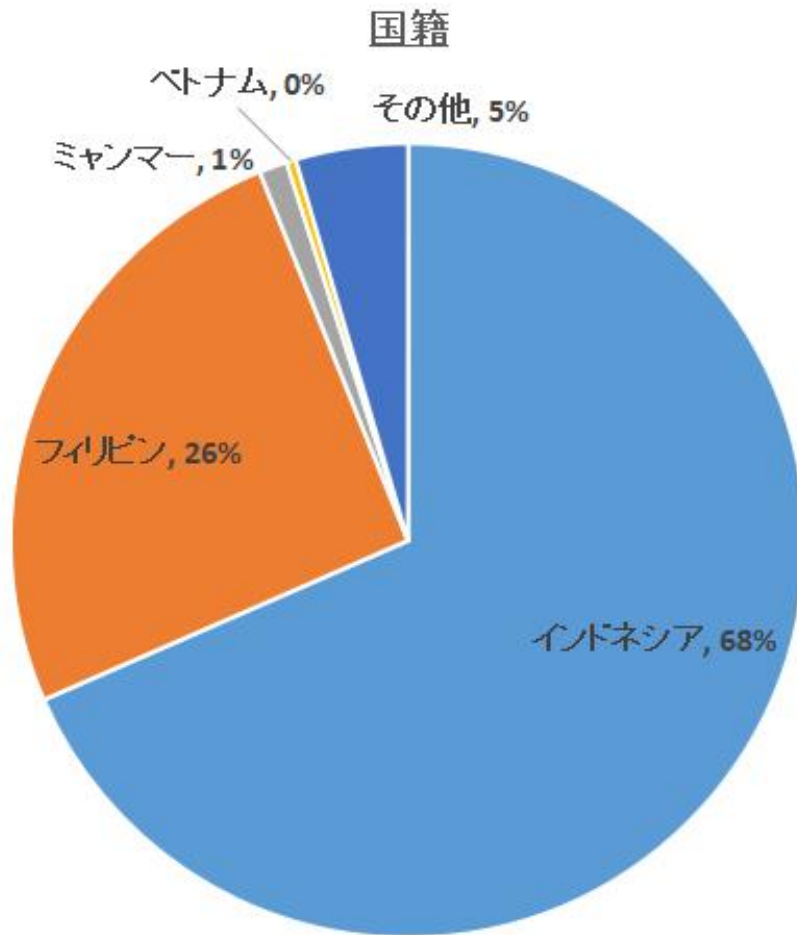


264名分回収



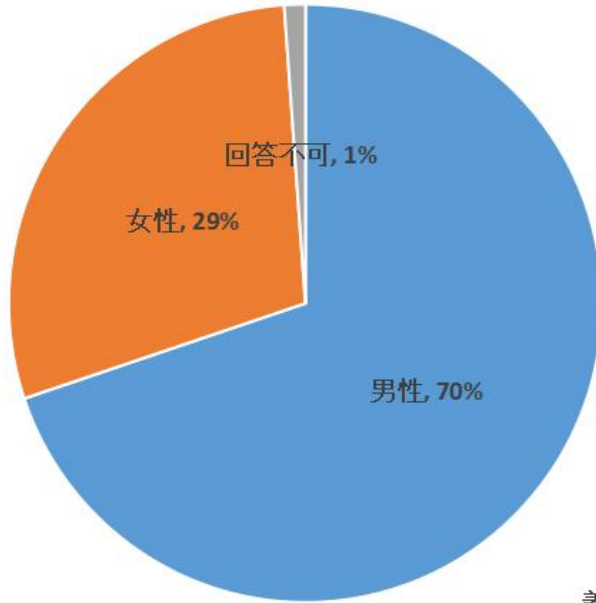
# ①外国人技能実習生対象のアンケート実施

## 264名にアンケート

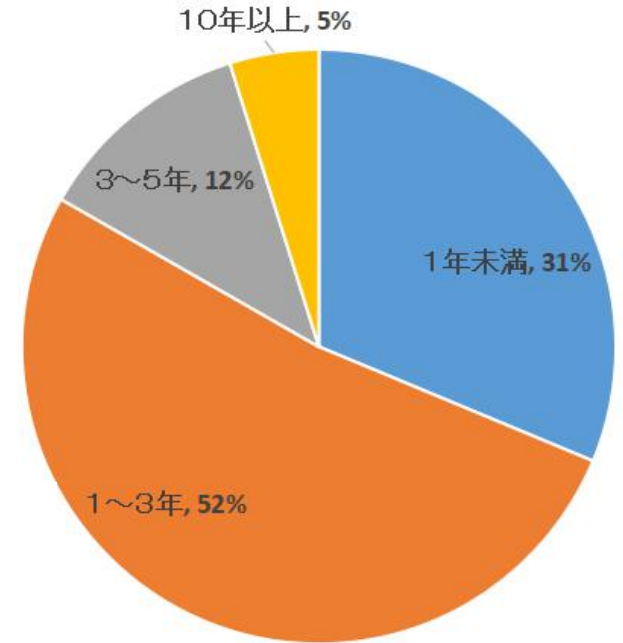


# ①外国人技能実習生対象のアンケート実施

性別



日本での居住年数

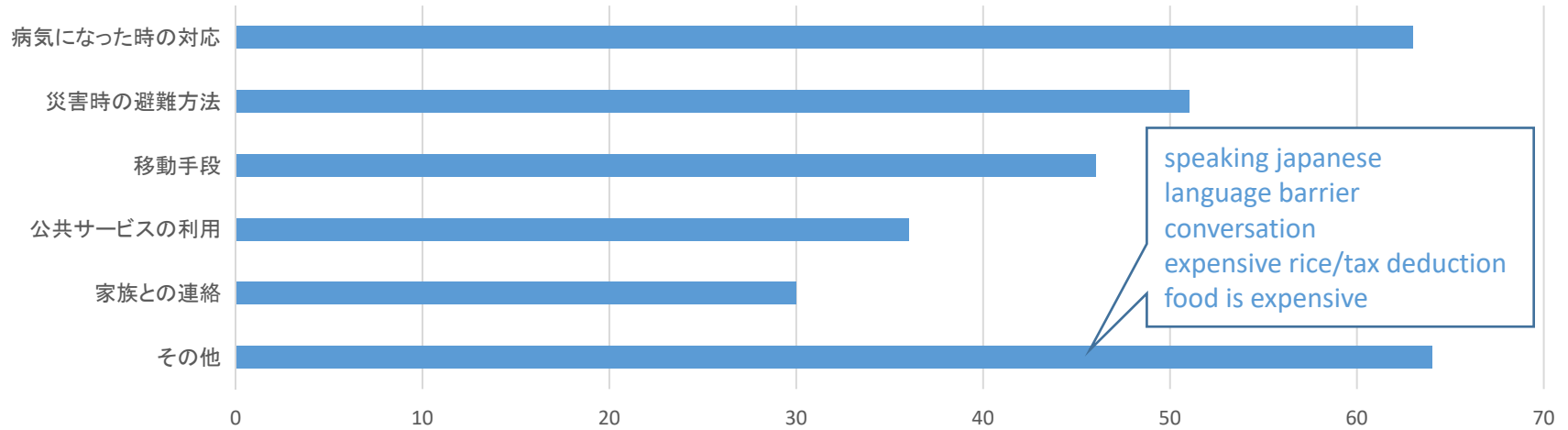


在留資格

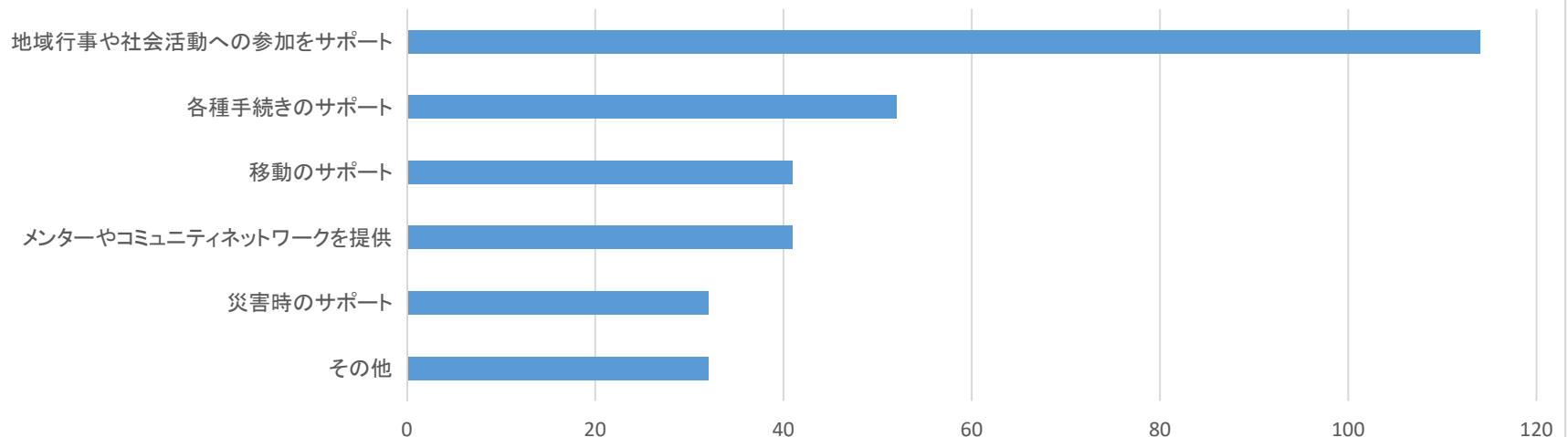


# ①外国人技能実習生対象のアンケート実施

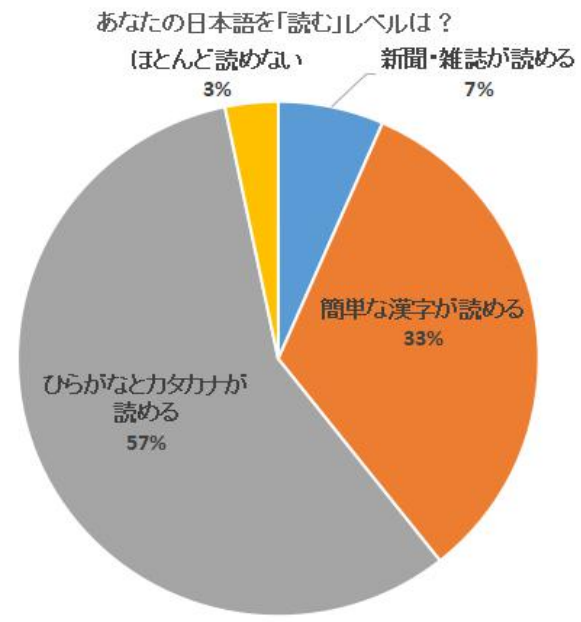
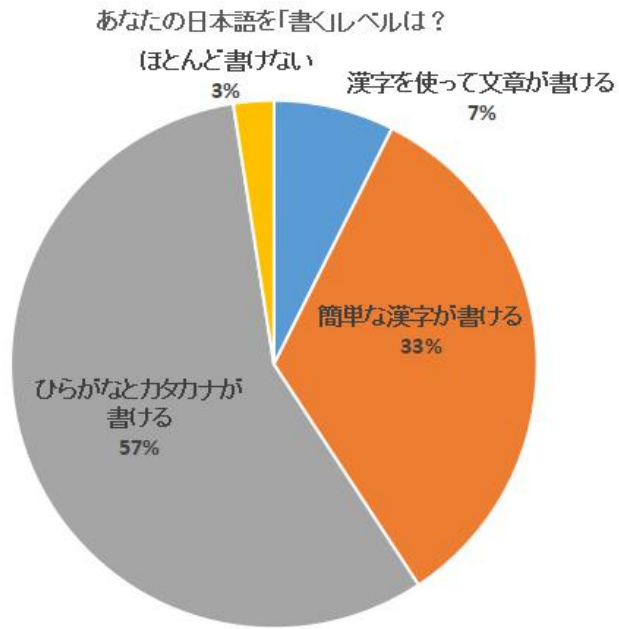
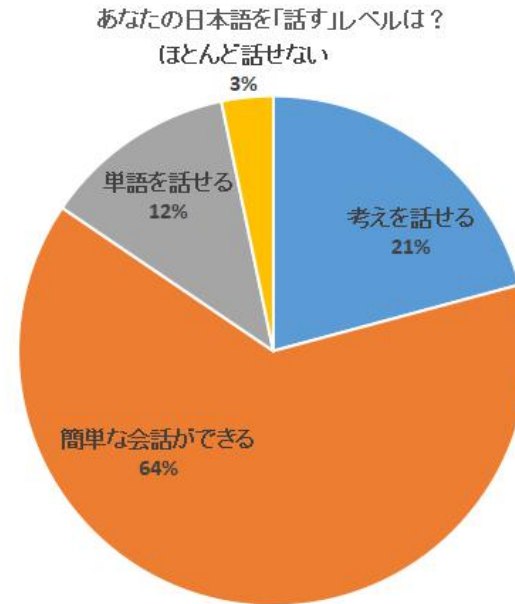
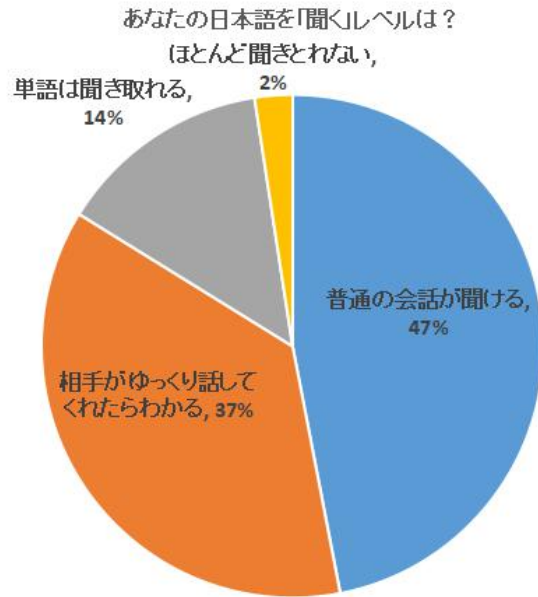
日常生活での困りごとについて該当するものを教えてください



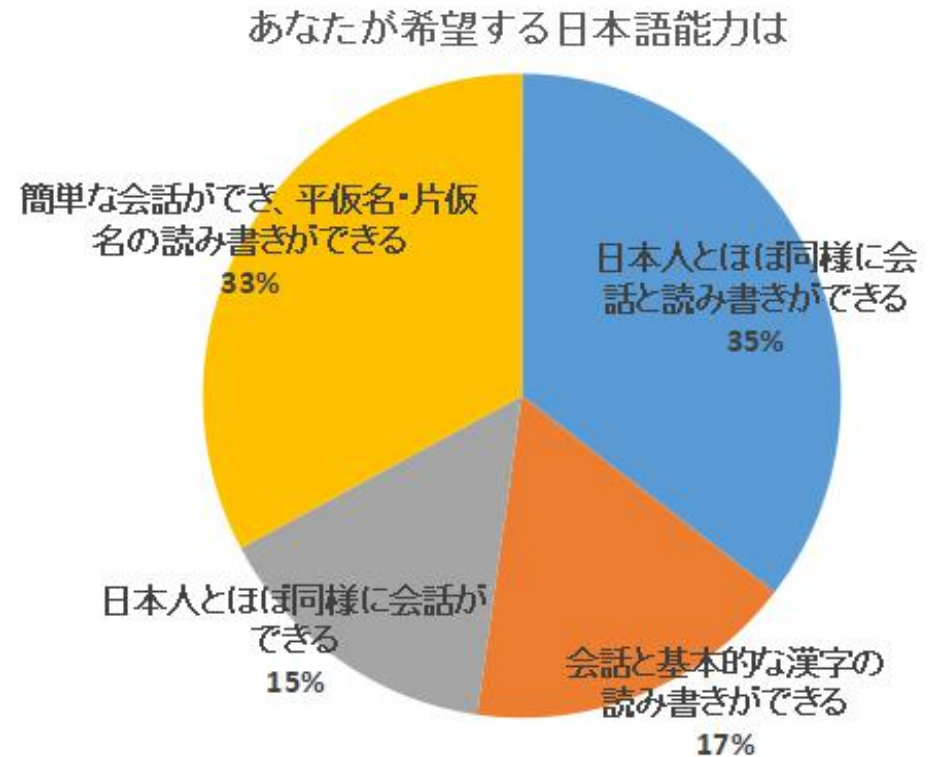
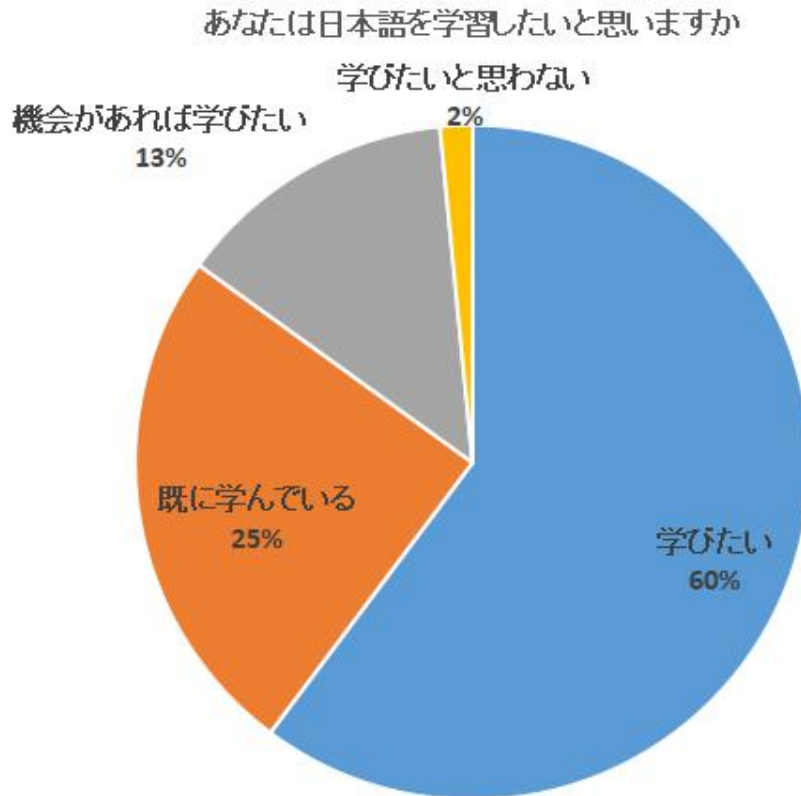
どのような生活サポートがあればよいですか



# ①外国人技能実習生対象のアンケート実施

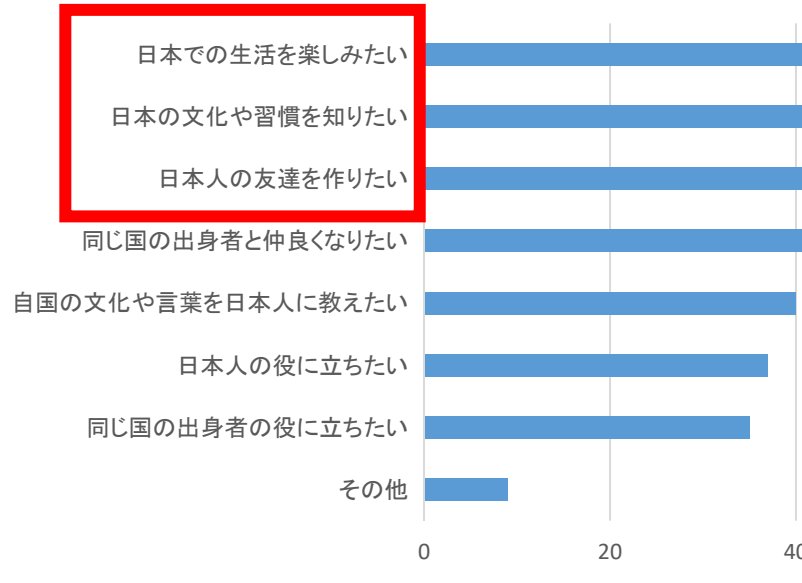


# ①外国人技能実習生対象のアンケート実施

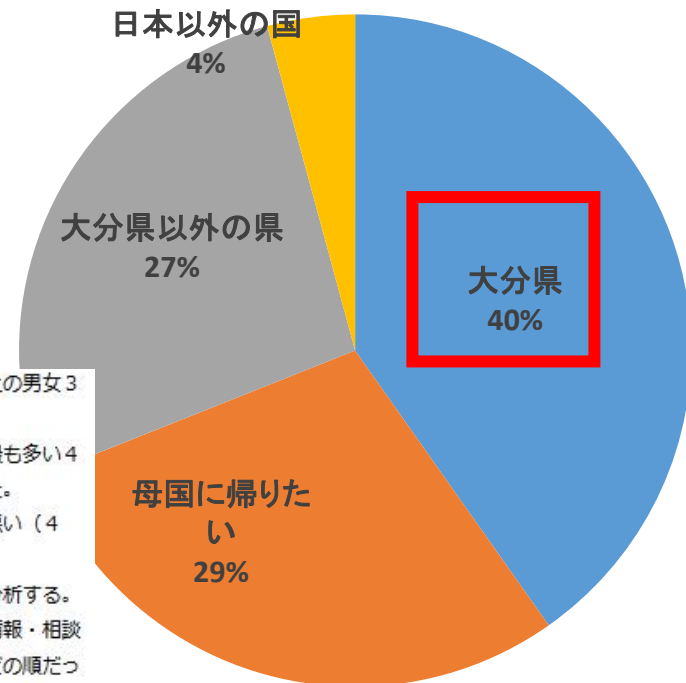


# ①外国人技能実習生対象のアンケート実施

あなたが今後したいと思うことは何ですか



あなたはこれからどこに住みたいですか



## 大分県実施のアンケート

県内で暮らす外国人のニーズや課題を把握し、多文化共生の推進につなげる目的。1年以上居住歴のある20歳以上の男女3千人を無作為に選び、昨年8月に郵送やインターネットで実施した。1026人(34.2%)から回答を得た。

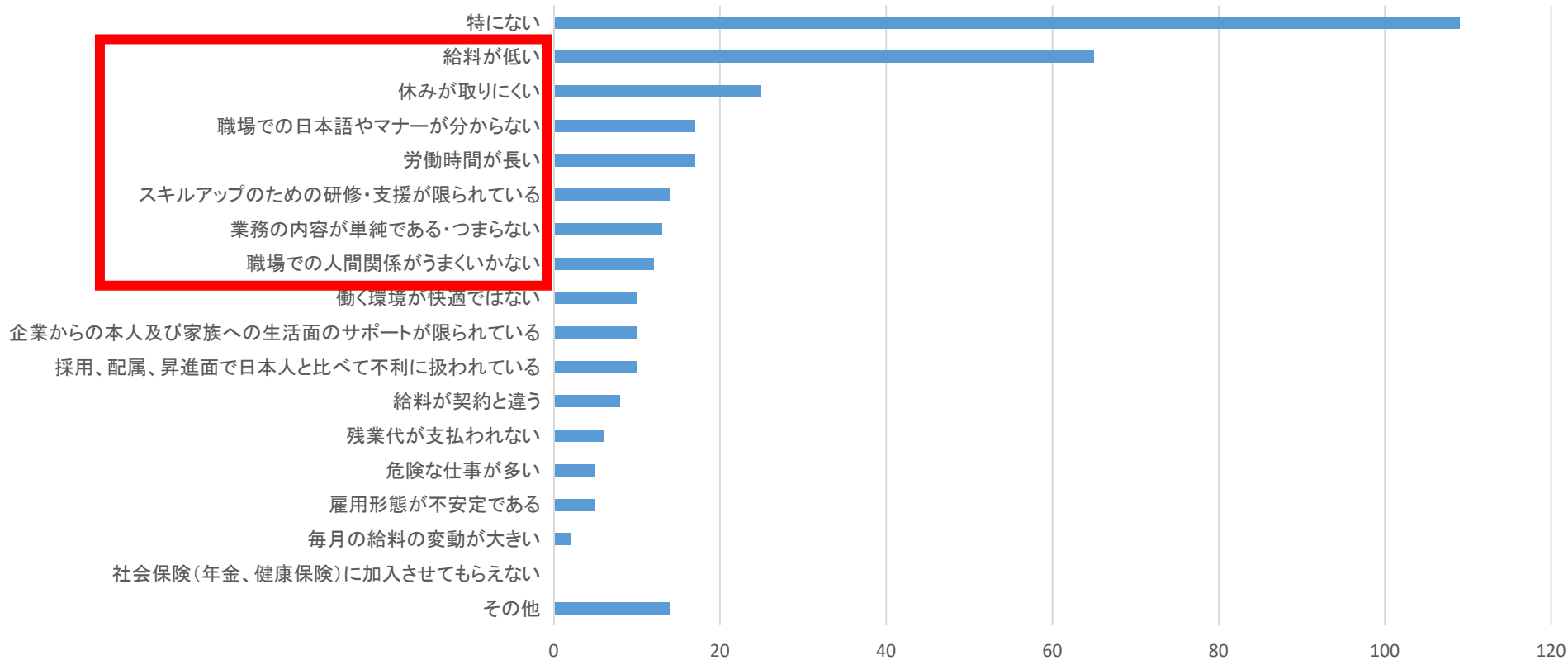
今後の居住意向について、66.6%が「住み続けたい」と答えた。理由(複数回答)は「今の仕事が好き」が最も多い46.3%。「家や周りの環境がいい」(42.2%)「職場や学校的环境や人間関係が良い」(30.2%)と続いた。

一方で、19.3%が「日本の大分県ではないところに住みたい」と回答。理由は▽給料や勤務形態などの条件が悪い(40.9%)▽やりたい仕事がない(30.6%)▽イベントやレジャーなどの楽しみが少ない(26.7%)一など。

年代別では20代、在留資格別では留学生の割合が高く、県国際政策課は「若年層の生活満足度の向上が課題」と分析する。生活上の困りごと(複数回答)は「日本語でのコミュニケーション」が56.1%でトップ。続いて▽外国語での情報・相談先(47.9%)▽日本人との付き合い方(42.3%)▽税金・年金・社会保険制度の仕組み(40.4%)一などの順だった。

# ①外国人技能実習生対象のアンケート実施

## 仕事の困りごとは何ですか



# ①外国人技能実習生対象のアンケート実施

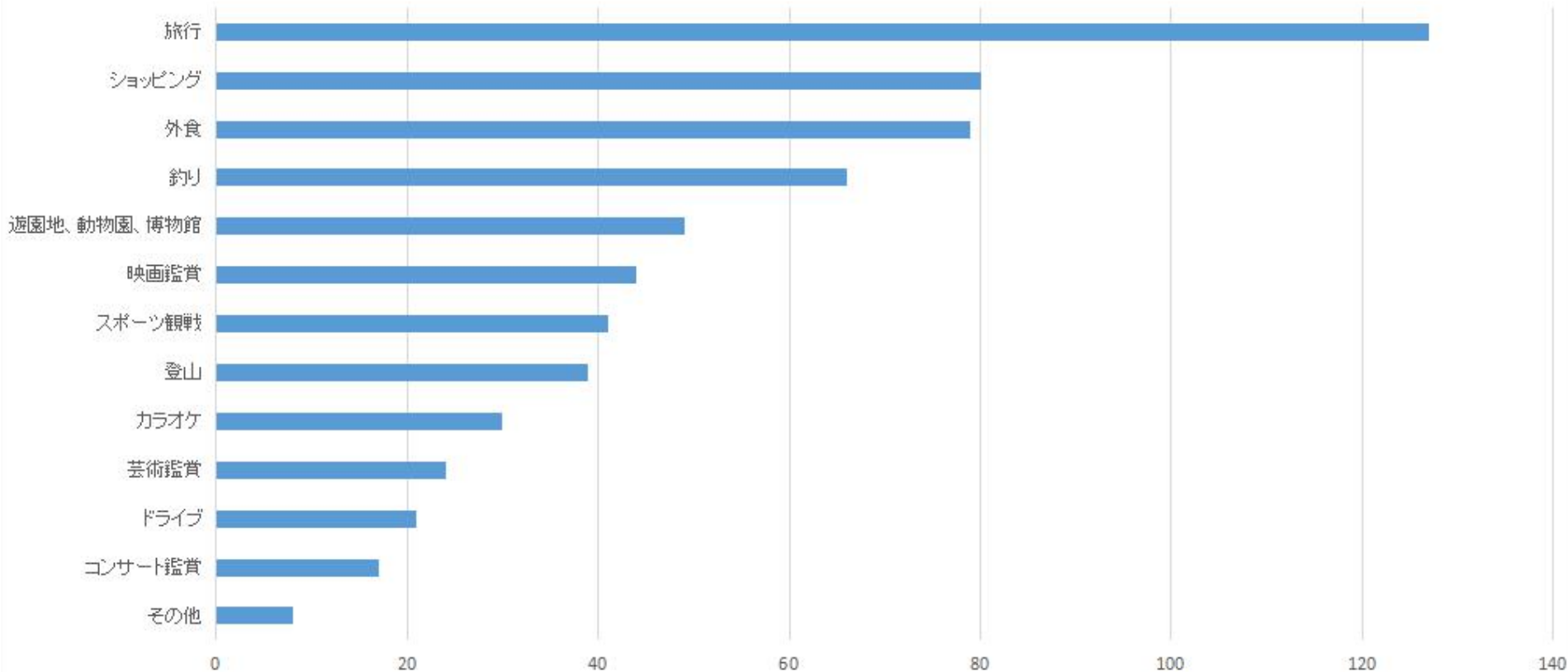
## 日本語能力試験(JLTP)の有資格者

|    | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代～ | 計   |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|
| N1 | 0   | 3   | 0   | 2   | 0   | 0    | 5   |
| N2 | 0   | 4   | 3   | 1   | 0   | 0    | 8   |
| N3 | 0   | 13  | 1   | 0   | 0   | 0    | 14  |
| N4 | 1   | 39  | 4   | 1   | 0   | 0    | 45  |
| N5 | 1   | 30  | 8   | 3   | 0   | 0    | 42  |
| N6 | 0   | 4   | 1   | 0   | 0   | 0    | 5   |
| なし | 2   | 75  | 41  | 14  | 5   | 0    | 137 |
| 計  | 4   | 168 | 58  | 21  | 5   | 0    | 256 |

|    | 1年未満 | 1～3年 | 3～5年 | 5～10年 | 10年以上 | 計   |
|----|------|------|------|-------|-------|-----|
| N1 | 1    | 3    | 0    | 0     | 1     | 5   |
| N2 | 0    | 4    | 1    | 2     | 1     | 8   |
| N3 | 0    | 8    | 4    | 2     | 0     | 14  |
| N4 | 10   | 27   | 7    | 1     | 1     | 46  |
| N5 | 16   | 20   | 1    | 4     | 1     | 42  |
| N6 | 1    | 2    | 2    | 0     | 0     | 5   |
| なし | 42   | 54   | 12   | 27    | 7     | 142 |
| 計  | 70   | 118  | 27   | 36    | 11    | 262 |

# ①外国人技能実習生対象のアンケート実施

余暇にやってみたいことは何ですか



アンケートは単独で資料にまとめる予定

## ②外国人技能実習生および留学生の交流拠点づくり

---

ねらい

彼らが気軽に立ち寄り、憩える居場所(交流拠点)をつくり、地域住民との交流機会や、彼らと共に楽しめる場を創出します。

連携団体

株式会社 旭商  
南日本造船協力事業協同組合



## ②外国人技能実習生および留学生の交流拠点づくり



日本人住民と  
外国人技能実習生との協働作業



## ②外国人技能実習生および留学生の交流拠点づくり



**連携団体の「株式会社 旭商」様が生コンを無償提供**

生コン打設作業



## ②外国人技能実習生および留学生の交流拠点づくり

外国人とのイベントステージ  
技能実習生達の憩いの場  
春の大祭の御旅所

3月7日現在



## ②外国人技能実習生および留学生の交流拠点づくり



技能実習生の地域イベントへの参加

中古PA(音響装置)を購入し、各種イベントで利用



## ③外国人技能実習生向け視察および研修の実施

### ねらい

彼らに日本の伝統文化を紹介するために、視察ツアーと講演会を開催します。相互理解をより深めることができ、日本人にとっても新しい発見があると思います。彼らが日本文化の伝道師になることを願います。

### 連携団体

## 南日本造船協力事業協同組合



月3回実施している日本語教室

## ③外国人技能実習生向け視察および研修の実施

2月22日 くじゅう森林公園スキー場へ



毎月3回実施している日本語教室の参加者を中心に、にぎやかなメンバーが集まり、国籍を越えた交流のひとつとなりました。


初めてスキーを体験する方も多く、普段あまり目にする事のない雪の上で、歓声を上げながら楽しそうに滑る姿がとても印象的でした。




## ③外国人技能実習生向け視察および研修の実施

### 3月7日に意見交換会を実施

NPOマックネットシステムの甲斐しのぶ様と、大分NPOデザインセンターの山下様をお招きし、多文化共生社会実現の意見交換会を開催しました。フィリピン技能実習生、インドネシア技能実習生、地区住民、NPOスタッフ30名が集まり、活発に意見交換が行われました。



相澤からの活動報告の後、甲斐様より別府での活動や、こうざき視察のご感想などのお話をいただきました。その後、山下様から総評をいただきました。また、フィリピン人技能実習生による料理の提供もあり、会場は大いに盛り上がりました。



甲斐様を自然海浜公園、キッズカフェ「コチドリ」、フィリピン技能実習生の耕作地にご案内しました。

## ④外国人技能実習生による休耕地の有効活用

### ねらい

外国人技能実習生からの希望があり、既に彼らによる休耕地の耕作を始めています。今後は農機具などを充実して、より多くの休耕地活用につなげ、コミュニティ農園として再興を図り、より地域住民とのコミュニケーションを深化させていきたいと思っています。

### 連携団体

南日本造船協力事業協同組合

## ④外国人技能実習生による休耕地の有効活用

彼らが最初に手がけた  
耕作地

2025年 500㎡を8名で耕作開始  
タマネギ 2,000本  
ニンニク 1,000本  
キャベツ、ブロッコリー、エンドウなど



## ④外国人技能実習生による休耕地の有効活用



今回の補助金で購入した  
耕運機(中古)と草刈り機

ありがとうございました！



## ④外国人技能実習生による休耕地の有効活用

新たな耕作地(約700㎡)での作業



ジャガイモ植付け用の畝づくり



フィリピン技能実習生が  
事前に準備

子供食堂「コチドリ」に参加する  
地元小学生とフィリピン技能実習生とで  
ジャガイモの植付



## ④外国人技能実習生による休耕地の有効活用



新たな耕作地での作業  
約700㎡

フィリピン技能実習生  
+4名



# まとめ

## 事業の継続

- ・アンケートで明らかになった課題については、優先順位に基づいて、関係機関と協力しながら解決していきます。
- ・交流拠点は住民のボランティアを中心に維持を継続します。故国を離れた青年たちの居場所、交流、憩いの場として活用していきます。
- ・休耕地での耕作は技能実習生と地域住民が共に楽しめるものとし、農作物の販売や、収穫の祝い事などを行いながら継続します。

## まとめ

今回の事業で「地域の絆」をより深め、多文化共生社会実現のステップとすることができました。

今後も、外国人も含めて互いに支え合う地域作りを進めていきます。また、地域内のみならず団体間の連携が、やりたいことの実現をととてもスムーズにすることが再確認できました。今後は連携を強く意識し、進捗や課題を相互に共有しながら進めることができると思います。